

1964年度学会主催連続講座報告

1964年度学会主催春期連続講座は現代日本の政治状況を中心テーマとして、本学に於て、5月11日より6月10日まで5回にわたって行われた。講演内容及び講師は次の通りである。

第1回 5月11日

「現代日本の政治と憲法」 —憲法改正問題—

(東京大学教授) 小林直樹氏

憲法調査会内部の憲法改正に対する態度の類型別および世論調査にみられる国民一般の意識に関して話された。

第2回 5月20日

「選挙と政治」

(千葉大学助教授) 柚正夫氏

選挙の形態とその質的意義について、即ち選挙がどのような形で政治の中に入ってきているかについて、1963年の総選挙を実例として、その結果にみられる注目点をあげて検討された。

第3回 5月27日

「労働運動と現代日本の政治」

(都立大学教授) 塩田庄兵衛氏

戦後日本の政治情勢の変化に結びついて生じた労働運動を、松川事件、下山事件、三鷹事件などを具体例として検討され、さらに視野をひろげて国際政治とのつながりに言及された上で、今後の労働組合運動のあり方を述べられた。

第4回 6月3日

「現代日本の外交問題」

(毎日新聞社外信部長) 大森実氏

現在、国際政治の重要なポイントとなっている南ベトナム問題と1960年に改定された日米安全保障条約の現時点における問題点及び将来の展望に関して述べられた。

第5回 6月10日

「現代日本の政治と社会」

(東京大学教授) 日高六郎氏

明治維新以降の西欧文明の摂取方法における日本的特質と、それが現在の精神状況にどのような形でかかわってきているかについて話された。

以上、憲法問題、あるいは南ベトナム問題などが非常に大きく報道されていたなかで行われた本講座は、まことに時期を得たものであったため、一般学生の関心も高く、毎回100名をこえる熱心な参加者を得て多大の効果をあげたと思われる。